

福島のおゆき国会日誌

<内閣不信任案 採決退席>

16日、立憲民主党提出の岸田内閣不信任案の採決が行われました。有志の会は、提案理由と各党の賛成討論反対討論をじっくりと聞きました。

今年の通常国会は岸田文雄首相が吹かせた解散風に野党第一党が踊って、その結果すべての法案が会期内に成立するという円満な国会となってしまいました。泉健太代表は、解散風に踊ってしまった恨み節をつらつらと不信任案の提案理由で述べていましたが、みっともないです。

私はこんな内閣不信任案には反対したい気持ちでしたが、会派内で話し合った結果、「日本の停滞の時間を延長しているだけの岸田内閣には信任に値しないため、あえて反対はしない。でも、腰の引けたみっともない不信任案はそもそも採決にすら値しない」ということで退席することといたしました。

投票なし	自由民主党・無所属の会 (三名) 田村 憲久君 山田 賢司君 吉野 正芳君
立憲民主党・無所属 (二名)	小沢 一郎君 小山 展弘君
公明党 (二名)	斉藤 鉄夫君
有志の会 (五名)	緒方 林太郎君 吉良 州司君 北神 圭朗君 仁木 博文君 福島 伸亨君

<LGBT 法案採決に棄権 国会審議の劣化が露呈>

13日、LGBT 理解増進法案について、自民党・公明党を含む超党派議連でとりまとめた立憲民主党・共産党・社民党から提出された法案と、自民・公明案をベースに日本維新の会・国民民主党案を基に修正された法案の二案が並行して本会議で採決に掛けられました。有志の会は、実質的に大きな法的差異のない両案にとともに賛成しましたが、私は両案とも採決に加わず、棄権いたしました。

そもそも人権に関わる法案については、いたずらに対決法案にすべきではなく、国会の場で可能な限り幅広い合意を得るための努力をすべきです。政治の場での価値対立が、LGBT への理解の増進どころか新たな分断と差別を生む可能性があるのです。

内閣委員会でわずか2時間半だけの審議で対立構図のまま採決するのではなく、日本人の価値観に基づく熟議を行うのが、本来の国会の姿ではないかと思います。会期末でのLGBT 理解増進法案での審議のあり方にこそ、日本の立法府の劣化が明確に露わになりました。私は、このような国会審議のあり方そのものに対する異議を申し立てる意味で、採決を棄権いたしました。



議場には残り、出入口付近で採決を見守る

出典：TBS ニュース

<政府のコロナ対策を国会で検証する法案を提出>

16日、新型コロナウイルス感染症対策検証委員会法案等を日本維新の会、国民民主党と一緒に提出し、記者会見を行いました。

この法案は、国民民主党の古川元久議員が中心となってとりまとめたもので、今般のコロナ禍における政府の対応を国会で第三者的観点から、国民目線に立って検証するためのものです。

福島第一原発の事故について、政府の検証だけでは十分ではないということで、国会に「事故調」を設置することが、当時の野党自民党議員から提案されました。私や古川議員も当時与党の議員でしたがこれに賛同し、超党派の議連の役員として動き実現いたしました。残念ながら、今の与党は全く応じる様子がありません

ここできちんとコロナ禍における政府の行動の検証を行わなければ、いずれまた来るであろう別の感染症時に同じような失敗をすることになると考えます。



<下妻市立高道祖小学校の国会見学>

16日、国会見学に来た下妻市立高道祖小学校の皆さんをお迎えいたしました。会期末の解散政局に揺れた国会をどのように眺めたでしょうか。

